

# ほっぴ・ステップ・JUMP!

(保っ父) 1992・5・8

VOL. 13 発行 北海道の子どもと保父の会

希望を持って、さらなる挑戦を!

会長 小田 進一

新しい年度も一月がすぎました。園生活になれぬ子どもたちが、不安そうに瞳を曇らせ親を追って涙を見せる姿に、心を痛め・寄り添い・心を通わせる努力を続けられる今日この頃ではないでしょうか。

北海道の子どもと保父の会は、この一年間、活動が停滞してしまい、二月の総会において「会」の存在価値を論議するに至りました。会報や例会などをリードする立場の私たちが、謙虚に反省する一方、「会」の目指すものを会員の方々ともう一度確認したいと思えます。大きな変化を予感させる保育の世界で、それぞれの存在を掛けた仕事として意欲的に取り組むには、困難と思われる状況が多いように思われます。しかし、保育者の人材確保が予算対策運動のなかでも無視できない項目の一つとして取り上げられ、保育の専門職としての要件についての研究も重ねられているやに聞きます。

私たちが、男の保母の会の結成を図った今から約十年前は、「性にとられない保育者」と「性の特徴を生かした保育者」像が一人の人間の中に求められているような傾向も見られました。当時の者たちの意識としても、日々の実践・職業生活上の諸問題をかかえ将来を悲観的にしか捕らえられないことが多かったようです。そのようなもどかしい状況の中で、「一緒に酒を飲むだけ」でも、「会」の結成を働きかけたものですから、明確な組織としての目標は無いのだと思えます。しかし、男性の保育者が徐々に増えつつあるといっても、道内では一つの園に複数の保育者としての男性がいるケースは皆無に近い状況です。保育現場の中心で責任のある職務を果たしている者は増えてきているにもかかわらず、正式の職名がないことを始め、社会的な位置づけについては非常に弱いことには十年前と何ら変化がありません。そして、このことに私たちは十分な検討や、努力をしていないのです。

今、保育現場の女性保育者や父母の方達は、保育所に男の保育者がいることに殆ど違和感を感じないでしょう。子育ての仲間としての認知はとて高くなつたように思えます。日々の実践の上でもやり甲斐が大きく持てるといううれしい報告も、すいぶん多く聞くようになりました。

地殻変動が始まったかのような不安定な状況の現在だからこそ、交流を深め、力を蓄え、知恵を寄せ合って、一方男女共生の保育にも思いを馳せながら夢のある活動を展開していきたいと考えています。再度呼びかけます。いつちようやってみよう!

## 第四回総会報告

去る、二月八日、九日、定山溪温泉「溪流荘」において、第四回の総会が行われました。今回は日程などの都合により、札幌市内の会員のみ十一名の参加となりました。

当日は吹雪の中、車のタイヤを滑らせながら必死の思いでたどりついた参加者もいて、《荒れ模様》のスタートとなりました。

今年の総会の大きなテーマは、保父の会の活性化をいかにして図るかでありました。まず小田会長より一言挨拶があり、続いて会の発足当時の思い、保父の会への思い入れ、発足の経過などが話されました。

次に、それに応える形で、会員各々がこの会に何を求めているのか、どんな会が望ましいのか等、意見を出しあ

いました。その中には、

「職場での思いや考え方の違いを、し  
がらみから離れて議論できる場が欲  
しい。」

「男性保育者の役割を考えたい。」

「実践に役立つ様な勉強をしたい。」

「悩んでいる時に色々な人の意見を聞  
ける場を。」

と、いった意見が多数出されました。

会員各々が色々な思いを持つて、保父の会に集つてきたことの再確認の場となつたことと思います。

続いて、瀬尾氏より、会発足後の歩  
みが話されました。その中では、保父  
会ニュース（機関誌）の発行を楽しみ  
にしていたという意見が多数出されて  
いました。また、例会・勉強会につい  
ては内容的には良いとされるが、それ  
に対して参加する人数が少ないといつ  
た問題が提起されました。会員の中  
からは、イベント等を通じ、一人一人に

役割を強制的に与えて会に参加せざる  
を得ない状況を作つてはどうかとの意  
見も出されましたが、ここで、

「誰かが何かを与えるだけだったり、  
教えるだけだったり、逆に与えられる  
のを待つているだけの会ならば、会自  
体続ける必要がないし、みんなが主体  
的にかかわつていく会でなければ、意  
味がないんだ。」と、小田会長より一  
喝。会場に緊張した空気が張りつめま  
した。

しかし、これを境にして、会員から  
は具体的な意見や、主体的にかかわつ  
ていくことについての様々な意見交換  
が繰り返され……結局、今後はプロ  
ックをわけて、その中で各々企画や準  
備を進めていき、多くの会員が交流し  
ていく方向で日常の会の活動を行つて  
いくことになりました。各ブロックの  
メンバーは次の通りです。

・機関誌　桑原、石田、船山

・調査（保父の実態調査）

　　〓 小田、福田、大泉（修）

・レクリエーション

　　〓 船戸、畑山、船山

・例会企画〓 瀬尾、遠藤、畑山、

藤田（例会講師として）

総会はそれで終了しましたが、そのあとは露天風呂につかったり、酒やビールを横に、各々のブロックで何をするか等、和気あいあいと盛り上がっていました。なかでも、レクリエーションでは、サッカーチームを組んで練習し、対外試合をしようという企画で船戸氏を先頭に燃えあがっていました。

さて、新体制で挑む保父の会ですが、この会が盛り上がっていくのも、衰退するもの、会員一人一人の思い入れ次第。やりたいことを遠慮なく持ちよって、心の躍る会にしていきましょう。

決算報告は下記の通りで、総会時に了承されました。

という結論で四回目の総会は幕を閉じたのでした。

その他に決まったこととして、

文責 遠藤龍仁

・会長 小田氏、事務局 船戸氏、桑原氏、瀬尾氏（会計兼任）は留任  
・例会は奇数月の第三週に、機関誌は、偶数月に発行していく事を確認しました。

平成 2 3 年度決算報告		北海道の子どもと保父の会			
3 年	摘	要	収入金額	支出金額	差引残高
月	日				
1	29	前回残金			55,978
2	12	利息	407		
		〃 会費（2年分 西村）	3,000		
2	14	総会残金	886		
		〃 全国大会補助金(小田・西村)総会会議代(西村)(北白石保育園)		30,000	
2	28	会費（3年分 西村）	3,000		
		〃 保父会ニュース送料		1,302	
3	8	会費（1・2年分 森本）	6,000		
		〃 会費（3年分 長南）	3,000		
3	15	会費（2年分 不破）	3,000		
4	11	保父会ニュース送料		1,364	
6	10	会費（3年分 寺島）	3,000		
6	19	会費（3年分 小田・瀬尾・船山）	9,000		
7	27	会費（3年分 大泉善）	3,000		
8	12	利息	369		
12	18	会費（3年分 堀合）	3,000		
1	24	会費（3年分 桑原・大泉）	6,000		
			43,662	32,666	66,974
以上 間違いありませんでした					

監査 藤田春義 

「風に吹かれて」

保父修行物語その十三

光星はとポツポ保育園 船戸 敬悦

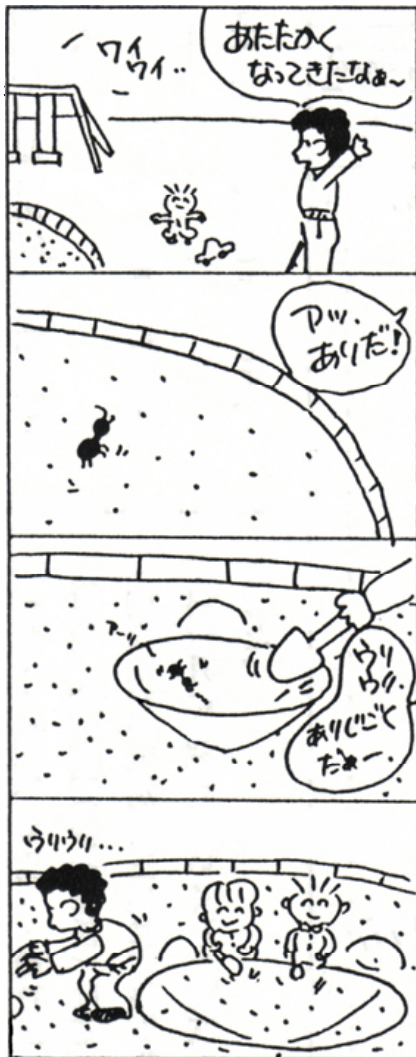
「おしいれの冒険」で盛り上がりを見せた生活発表会も無事終わり、私は大阪で開かれたある保育研究集會に保育園の代表として参加していた。全国各地から、保育界、教育研究機関の代表が参加しているのだった。記念講演として、東京のI保育園のF園長が「保育園の役割」ということで講演されていた。その後グループに別れての交流会が始まり、何組かに別れて意見を交換しているのだった。全国から集まった同じ保育者同士、自分の受け持っている子どものこと、また、悩み、体制上の問題等、子ども論議に花が咲き、話し合いは盛り上がりつつあった。少しして、私の隣に先程講演して下さったF園長先生が着席された。Fさんが話をするだけで聞いている人達はその話の中に誘い込まれていくような不思議な魅力を感じていた。私はいま受け持っている自閉症児T子ちゃんとクラス

の子どもの達の関わりあい、お互いに育ちあっている様子を夢中で話していた。交流会が終わったあと私とFさんは意気投合して時間の過ぎるのも忘れて話してんでいた。私の話を「ウンウン」と目を細めながら聞いてくれたおばあちゃん先生の眼鏡の奥に、私は光るものを感じていた。一瞬の沈黙の後Fさんは言った。「もし良かったら東京で実践してみませんか？」びつくりしていた……「だって僕にはT子ちゃんが……さくら組の子ども達が……」しばらくの間……「全然としていた。考えさせて下さい……」という言葉でFさんに伝えて……

私は会場を出ていた。堂島川にうつる夕日を眺めながら中之島を歩いていった。初めて大阪にやってきた日のことを思い出していた。リュックをしょって……初めての大阪！本当に新鮮だった。あれから七年……様々な出来事が走馬灯のように私の脳裏をかすめてゆく……私は私のゆれうごく心が……  
……せつなかつた。(次号に続く)

新

## 保父男くん。 k.



当時ここにこんなでかい写真がありました。

西村くんより、

手紙が来たよ！

保母資格を取るために、単身東京へ出て、保育所で働きながら勉強に燃えている、西村 猛君から先日葉書が届きました。今勤めている、東戸越保育園では0才児を担当し、学校の方も2年目になりより専門的な内容になってきたという事です。写真(ちよっと見づらいのですが・・・、中央で肩車をしているのが彼です)の姿も元気そうですね。

早く札幌に戻ってきて、頑張ってほしいものです。

・・・こんな具合に皆さんも近況をどんどん事務局あてに送ってください。大々的に紙面を使って紹介します。

# 近況報告の

## コーナー

新年度早々、ビッグニュース！

市（月寒保育園で臨職していた大泉修氏が前田保育園に就職しました（それも正職で）。オメデトー！

そして石山中央幼稚園に勤めていた福田剛氏が早来町職になり、町立保育園で働いています。

近況等、お知らせ下さい。次回の新聞で紹介します。

小田氏が札幌私保連の広報紙に二年間、計十二回にわたって、男性保育者をテーマにした記事を書く事になりました。ここ数年札幌の私立保育園に男性保育者が増えてきています。更に我々の存在をアピールする良い機会にな

会員の皆さんの意見も書いていきたいと意欲満々の小田氏です。

各ブロックの活動状況ですが、年度変わりの時期ということもあり、なかなか集まらず、進行していない現状です。五月に入り、仕事の方も少し落ち着いてきた頃だと思しますので、連絡を取りあって活動を進めて行きましょう！

## お知らせ

五月の例会は五月十六日の午後六時三十分より、北二西七「かでる2・7」の「自動福祉研究室」で行います。例会企画の係でなにやら考えている様ですが、それに頼る事なく皆さん一人一人が話したい事を胸に秘めつつ、参加してほしいと思います。

平成四年度の会費三千円を集めています。「北洋銀行 北海道と子どもと保父の会計 瀬尾昌彦」まで振込をお願いします。

## 編集後記

実に一年ぶりのほっぷ・ステップ・JUMP!です。隔月発行になる分、充実した紙面づくりを目指し、積極的に取材なんかもしたいなーと、思っています。ご意見ご感想もお待ちします。よろしく！

## 事務局

〒000三 札幌市白石区北郷二条三丁目  
北白石保育園内